

たきさんじおにまつ  
瀧山寺鬼祭り

- 文化財の所在地 愛知県岡崎市
- 保護団体 瀧山寺鬼祭り保存会
- 公開日 毎年旧暦正月7日に近い土曜日
- 文化財の概要

【指定の趣旨】

鬼が追われるのではなく、災厄や悪霊を祓い、福を与える存在として登場する民俗行事は日本の各地に散見され、仏教寺院の修正会しゅしやうえと結びついて伝承されてきたものが多い。本件は、このような除災招福を願って行われる鬼祭りの典型的な性格を伝えており、愛知県下においては、火祭りの形態をとる修正会の鬼祭りの唯一の伝承例でもある。三河地方における鬼祭りの地域的な様相や我が国における民間信仰の変遷を考える上で重要である。

【文化財の説明】

愛知県岡崎市の瀧山寺に伝承される鬼祭りで、正月の法会である修正会に行われる。鬼祭りは、その年の豊作を祈願する庭祭りと、災厄を祓う鬼の出る火祭りから主に構成される。庭祭りでは、十二人衆と呼ばれる一団が瀧山寺境内の舞台の上で、田打ちから田植えまでの稲作の作業を模擬的に演じ、豊作を祈願する。その後、鬼面と赤い装束をつけた3匹の鬼が現れ、火祭りとなる。

火祭りでは、若い衆が持つ松明が燃え盛るなか、鬼たちは、本堂の外陣と回廊を巡り、また、手に持った大きな鏡餅を振り動かし、五穀豊穰と天下泰平が祈願される。



十二人衆による庭祭り



本堂での火祭り